



滝見のシャワールーム

空  
出る時に  
空にしよう

特集

これからの地域交通

やまなし

# 自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE  
Vol.56 September.2024

contents

- 市町村長リレー
- 苦言提言
- 地域シンクタンク
- 市町村の元気印
- 地域おこし協力隊の活動



machijiman

## お問い合わせ先

早川町振興課 観光担当

住所 山梨県南巨摩郡早川町高住758

電話 0556-45-2516

HPアドレス <https://www.town.hayakawa.yamanashi.jp>



シリーズ  
ま・ち・自・慢

Hayakawa-Town

# 早川町

自然豊かな町 奥山梨はやかわ

VOL.56 September, 2024 machijiman

早川町は山梨県の南西の端、静岡県との県境に位置し、標高3,000mを超える南アルプスの山々に抱かれた自然豊かな町です。町を南北に流れる早川に沿って大小の滝や渓谷が美しい風景をつくりだし、特に新緑や紅葉の季節は一段と美しく大自然を満喫することができます。

町内には日本列島を縦断する糸魚川静岡構造線の地下で長年にわたり涵養された良質な温泉が数多く湧出しています。女帝の湯「奈良田温泉」、歴史ある湯治場「西山温泉」、古代を感じる「光源の里温泉」、豊富な湯の花「大滝温泉」、湯上り温かな「草塩温泉」、硫黄冷鉱泉「雨畑温泉」、霊峰に寄り添う「七面山温泉」など、個性豊かな温泉にゆったりとつかりながら、美しい景色を眺めることができます。ぜひ早川町温泉巡りをお楽しみください。

やまなし

# 自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE  
Vol.56 September.2024

## Contents

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.56 September.2024

- まち自慢 早川町
- 02 市町村長リレー 甲府市  
富士河口湖町
- 06 苦言提言 自信をもって山梨を勧める! 山梨が良すぎる!  
株式会社 ジブラボ 代表取締役 桐山 祐輔
- 07 特集「これからの地域交通」
- 08 特集1 公共交通の確保維持に向けて
- 12 特集2 自動運転EVバスの取り組み
- 14 特集3 甲斐市版モビリティハブの取り組みについて
- 16 特集4 AIデマンド交通「のるーと笛吹」の取り組み
- 18 地域シンクタンク
- 20 市町村の元気印
- 22 地域おこし協力隊の活動
- 24 講演録
- 31 自治 Q & A
- 34 山梨ならではの「共生社会」の実現に向けて
- 36 がんばっていま~す。
- 38 はつらつ!!市町村職員
- 40 市町村振興協会たより  
時の人  
編集後記



■表紙写真 「山水徳間の里」の名物「滝見のシャワールーム」  
清流「富士川渓谷」沿いにある、キャンプ場主体の複合リゾート施設「山水徳間の里」では、WiFi完備の快適な環境で、川遊びや、夜には滝のライトアップも。「滝見のシャワールーム」からは、名前のとおり、眼前の滝と紅葉を見ながら爽快感たっぷりにシャワーを浴びることができます。  
【南部町提供】

## 県都の役割を果たすまちづくり

樋口 雄一 甲府市長

### 連携中枢都市圏の形成

人口減少や少子高齢化の進展などにより、これまでのようなフルセットの行政サービスを単独自治体で行うことが困難となる中、本市においては、近隣自治体とスクラムを組むことが、持続可能な行財政運営を進めるうえで不可欠であると考え、近隣の8市1町と「やまなし県央連携中枢都市圏」（愛称：県央ネットやまなし）を形成し、各自自治体の自主自立を基本とした柔軟な関係性のもと、地域の共通する課題の解決に取り組んでおります。

その具体的な取組としては、広域観光プロモーションによる誘客促進をはじめ、多職種連携の新たなワーキンググループの立ち上げなどによる在宅医療・介護連携の充実・強化、消費生活センターの広域的展開による消費者安全の確保など、様々な分野の連携事業を展開しており、それぞれの自治体を持つ強みを活かし、弱みを補完し合い、連携によるスケールメリットがもたらす相乗効果や事業の効率化、職員間の情報

共有や交流促進などが図られております。

今後も「県央ネットやまなし」のネットワークをより強固なものとし、圏域住民が連携によるメリットを肌で感じることで、きるよう取り組んでまいります。

### 甲府駅周辺のまちづくり

本市では、県都の玄関口として、これまで政治・経済・文化の中心的役割を担ってきた「甲府駅周辺」の魅力を更に向上させるため、様々な取組を展開しており、令和4年度には、甲府城南側エリアの整備に関する「小江戸甲府城下町整備プラン」を策定し、歩きたくなるまちなかの創出を目



樋口 雄一（甲府市長）

PROFILE 昭和34年12月30日生まれ(64歳)  
昭和58年 3月 専修大学卒業  
平成11年 4月 山梨県議会議員就任  
平成27年 2月 甲府市長就任(現在3期目)



東京都内における広域観光プロモーション

指す中で、歴史・文化の新たなランドマークとなる歴史文化交流施設をはじめ、交流広場や民設民営による飲食物販等施設、甲府城と中心市街地を繋ぐ散策路の整備を進めているところであります。これらの施設は、来年4月のオープンを予定しておりますので、是非、足をお運びいただきたいと思っております。

また、中心市街地を長きにわたり支えてきた県内唯一の百貨店の跡地は、まちなか再生の要となる重要なポイントであり、本跡地の活用により、甲府駅前広場から甲府城、その南側エリア、そして中心市街地へと歩行者動線がシームレスに繋がることで、地元商店街の振興・中心市街地の活性化



歴史文化交流施設(右)と飲食物販等施設(左)

化・まちなかエリアの再生に大いに期待するものであり、再開発の確実な実現に向け、積極的に支援しております。

加えて、甲府のまちなかでは、自らまちづくりへ参画する意志を持つ市民、事業者などのプレイヤーが集う「甲府まちなかエリアプラットフォーム」を中心に、まちなかに集積する地域資源を活用し、エリア内外の多くの人々を惹きつける、新たなまちなか再生事業も推進しています。

### 「こうふグリーンラボと

### SDGs 未来都市

本市では、県都でありながら豊かな自然に包まれた「山紫水明の地甲府」を、水素をはじめとする次世代エネルギーの力で、次の世代に確かに繋いでいくため、昨年11月、ゼロカーボン推進の戦略拠点として「こうふグリーンラボ」を開設しました。

このラボでは、「実証研究」と「普及啓発」の2つの側面から地域脱炭素の加速化を図っており、山梨県が進める水素の大口利用と連動した、水素バーナーや水素コンロ、水素自転車などを活用した、水素の小口利用の普及を目指すための研究や、新品種の植物を活用したバイオマスエネルギーの創出、また、多様なステークホルダーと連携した次世代エネ



ルギーの普及啓発イベントの開催や、若者によるFCドローンなどの水素アプリケーションの研究開発を通じた人材育成といった、幅広い世代における次世代エネルギーのリテラシー向上など、本市の特性やポテンシャル等を踏まえた先導的な取組を推進しております。

こうした中、本年5月、本市が進めるゼロカーボンに関する諸施策の後押しとなる「SDGs 未来都市」に選定され、引き続き、本市の新たな特色とも言える水素エネルギー研究機関等の集積やリニア中央新幹線の開業等、近未来を牽引する最先端の環境を活かした取組を進めるとともに、武田氏のレガシーに代表される500年を越える歴史・文化遺産をはじめとした、先人たちが築いた多種多様な地域資源を未来へ引き継ぎながら、継承と変革が調和した新たな価値を創造するまちづくりに取り組んでまいります。

### 希望ある未来へ

今後、益々加速することが予測されている人口減少社会に適応していくためには、本市の特性や魅力を捉えた実効性の高い施策の構築・展開はもとより、周辺自治体と連携した高効率な行財政運営等、多様な主体とのなお一層の連携・協働や、様々な人材がまちで躍動し、地域社会を支えていく「人創り」など、未来を見据えた「次なる行動」が必要です。本市では引き続き、開府500年で培った「こうふ愛」を原動力に、『まちづくりは未来創り、未来創りは人創り』の信念のもと、希望ある未来を力強く切り拓いてまいります。



## 子どもの未来をまもる

## 住民の生活をまもる まちづくり

### 持続可能な観光地をめざして

### 渡辺 英之 富士河口湖町長

町制施行20周年と富士山の世界文化遺産登録10周年という節目の年であった令和5年の12月より第4代富士河口湖町長として町政のかじ取りを担わせていただくこととなり、半年余りが過ぎました。

富士河口湖町は、富士山と4つの湖をはじめ豊かな自然の魅力や価値を守り育みながら、安心して生活できる環境と将来に希望が持てるまちを目指しています。「住みたいまち」・「産んでみたいまち」・「育ててみたいまち」・「働いてみたいまち」として、町民のみなさまがこの町の素晴らしさを実感し、この町で生活を営む喜びと誇りを次世代に繋げ、希望と笑顔あふれるまちづくりに取り組んでいます。

### 持続可能な観光振興

これからの観光地の地域間競争を見据え、新たな観光資源の発掘とコンテンツづくりに取り組むことと併せ、観光客の分散や観光客の受け入れ環境の充実と住民生活が調和した持続可能な観光の振興を図る施

策などの充実に取り組みんでいます。

当地域の観光業は、町の特産品や伝統文化、美しい自然などを活かした魅力があります。これを最大限に引き出し、地域住民と協力して観光産業を発展させることで、地元経済の振興や雇用の創出にも寄与していきます。

### 福祉立町の推進

すべての町民が安心して生活できる社会を築く「福祉立町」の推進に取り組んでいます。お年寄りや障がい者、すべての方々に寄り添い、地域全体で協力し、包摂的な



渡辺 英之 (富士河口湖町長)

PROFILE 昭和30年4月26日生(69歳)  
昭和49年3月 31日 県立北富士工業高等学校卒業  
平成 9年5月 1日 (有)渡辺木工代表取締役社長  
平成30年4月 1日 同会長  
平成29年10月16日～令和5年9月25日  
富士河口湖町議会議員  
令和 5年12月 7日～富士河口湖町長

支え合いのある社会の実現を目指します。

また、有資格者採用の拡充や地域資源を最大限に活用し、住民の声に耳を傾けながら、福祉サービスの充実を図ります。まずは高齢者等のおむつ購入補助の対象者の拡充や高齢者のスマートフォン購入費の一部助成を行うと同時に使い方教室の開催などきめ細やかな支援と、加齢による聴力機能の低下により、日常生活において補聴器を必要とする高齢者に対し、補聴器購入費用の一部を助成するなどソフト事業の充実を図っています。

## 教育をまもる

教育こそが町の発展と人口減少対策の要であり、「教育は公共事業」という前町政の信念を受け継ぎ、真摯に向き合うことで、町の未来を切り拓いていくことに取り組んでいます。町の未来を担う子どもたちの教育レベルを向上させることは勿論のこと、自己肯定感を芽生えさせ、地域全体の活気と誇りを育むことが大事なことであります。

そのため、これまでの施策に加え、教育格差是正を考えた助成の実現のための施策として、まずは低所得の子育て世帯に、学習塾が提供する学校外教育サービスの利用に係る費用の一部を助成し、等しく子どもが学習環境を確保するための事業を行うっております。

また、充実した学びの環境が未来への投資であり、町全体の発展に繋がると確信しています。そのため、学校施設の整備は重要課題と考えており、計画的にスピード感をもって取り組んでいきます。

## 子育て支援策の充実

最も大切な施策の一つとして、「子育て支援」に取り組んでいます。令和6年4月に、児童福祉法等の改正に伴いこども家庭センターを創設しましたが、町では、従前より、母子保健業務と児童福祉業務を統合した体制で妊娠出産から子育て支援まで切れ目なく、母子及びその家族を支援してきました。

支援事業として、「不妊治療費の助成」、「乳幼児用おむつ費用の助成」、「保育料の完全無償化」、「保育所、小中学校の給食費無償化」、「高校生までの医療費の窓口無料化」を実現しています。さらに、保育所等に通わせることなく、家庭で保育する保護者等へは相談支援と経済的支援を併せて行う「おうち子育て応援事業」も重要な施策として行っています。



## スポーツツーリズムの推進

地域のより豊かな経済発展のための施策の一つとして、「スポーツツーリズム」の推進に取り組んでいます。くぬぎ平スポーツ公園は、富士山の北麓、標高1000メートルに位置し、令和3年4月にリニューアル

オープンしました。31,000㎡の人工芝のメイングラウンドに天然芝のサッカー場、さらに当年度はサブサッカー場の10,000㎡を人工芝化するなどスポーツの国際基準に合った整備を行い、スポーツ合宿や大規模なスポーツ大会の誘致に取り組んでいます。



## 町民の「生活をまもる」

物価高による生活への影響を和らげ、地域経済の健全な発展を促進するため、「物価高騰対策商品券事業」を実施しています。燃料費をはじめとする諸物価の高騰は、町民の生活に切実なる影響を与えていることから、全ての町民を対象に一人あたり3万円分の商品券を配布することにより、町民の「生活をまもる」ための事業を実施しています。

今後、経済状況の変化を注視し、さらなる住民の生活支援と消費喚起を図る事業に迅速に取り組むたいと考えています。

# 自信をもって山梨を勧める！山梨が良すぎる！

**甲** 府市に移住し、4年が経とうと  
しています。振り返ると静岡市

で当時勤めていたコワーキングスペースで出会ったやまなし大使の方に導かれ、成り行きで山梨へ移住してきたなあと感じます。2018年のことです。コワーキングスペースというものが国内各所に徐々に出来てきた状況の中、甲府駅周辺には交流拠点となる目立った施設はありませんでした。2018年は世の中のテレワークという言葉が広がり始めていて、Skypeやチャットワーク、Zoomなどに始まるICTツールが普及してきたと感じられた年でした。県庁を目前に配し基幹駅である甲府駅の周辺において交流拠点は必ず必要とされるであろうと確信を持つていた中で、自社事業として設立に動いてくれる企業を探すこととなりました。そして紆余曲折あり、現在のCoworkingSpace CROSS BEのオープンに至りました。オープンは2020年4月13日、忘れもしない「コロナウィルス感染拡大の第1回緊急事態宣言」の最中でした。当日は1日を通して店前を歩いている人は10人いくかいかないか、車も市営バスを除いて2、3台しか走っていなかったのではないかと記憶しています。（実際はそんなことないと思いますが。）  
設立に向け浜松と甲府を毎週行き

## 苦言 提言

Kugen Teigen

桐山 祐輔  
Yusuke Kiriyama

株式会社ジブラゴ  
代表取締役



来する生活が2019年11月から始まり、4月のオープンを経て2020年10月にまずは単身で移住することに。その後半年ほどおいて家族も移り住むようになり。本件で関わるまで山梨県には2度ほど観光で訪れたことがある。という程度でしたので、知り合いもない、縁もない、ましてや自分が暮らすという想像すらしたことが無い場所でした。しかし実際に暮らしてみると、暑い寒い浜松に比べても激しいですが、とても穏やかな気がして暮らしやすいと感じています。山梨で出会った人は皆さんが歓迎してくれて、人情優しく温かい地域だと感じました。そして果物はもちろん、その他自然の恵みも豊かで子育てには本当に良い場所だと感じ、このまま山梨にしようと思えました。

そんな決意の元、せっかく甲府駅前に人が集まる交流拠点として機能するようになってきたCROSS BEの力や魅力をもっと生かして、広く地域に還元、貢献できる方法を探して「ジブラゴ」というコミュニティを立ち上げ、会社を設立することとなりました。移住やUターン、二拠点居住などで山梨に居場所や繋がりをつくりたい20代、40代を中心に集まっており、学びや経験、成長できるイベントや企画、新しい仕事をみんなで生み出してチャレンジ

しています。そして同時に町づくりや社会・地域の課題解決に動けるチームづくりを進めています。人口減少が著しい山梨において、若者が住みたい地域にするには①仕事の選択肢があり②フラットに繋がれるコミュニティがあり③町が楽しく変化、成長が期待できることが不可欠です。それらを前述のコミュニティメンバーの力を集結して築いていき、首都圏に暮らし働く若者たちが「地方で暮らす」ことを選択肢にしていけるように拡大させていきたいと考えています。

地方はどれもそうですが、若者たちは「無いもの」に目を向けがちです。大都市には「それ」があると見えてしまいます。誰しもそんな時代はありますので、快く送りだせばいいと個人的には思います。しかし人の暮らしの豊かさは、貨幣や資本といわれるものだけでは成り立ちません。山梨に「有るもの」を強くたく魅力的にし、日本の中での山梨の役割はなんなのかがもっと分かりやすくなれば、然るべきタイミングでこの地域を暮らす場所として選ぶ人がもつともっと増えると思います。そして各市町村においてもそれぞれが強みや役割を明確にし、この市はこういう市、この町はこういう町というのが見えるようになるとより良いなと思うところではあります。